
医療関係者視覚障害リハビリテーション研修会

日本ライトハウス養成部

芝田 裕一*

はじめに

医師・看護婦・視能訓練士・MSW等の医療関係者（眼科）の視覚障害リハビリテーションに対する理解の必要性は論をまたない。障害（失明）告知、視覚障害リハビリテーションへの導入等、医療関係者の担う課題は重要である。

1986（昭和61）年11月14日に大阪市身体障害者スポーツセンターにおいて、'86盲人福祉展（主催：盲人福祉展実行委員会・社会福祉法人日本ライトハウス・財団法人大阪府盲人福祉協会・社団法人大阪市盲人福祉協会、後援：大阪府・大阪市・大阪府眼科医会他）が開催され、そのテーマは「医療と福祉の連携をいかに進めるか」であった（盲人福祉展実行委員会、1987）。その中で、医療スタッフによる障害（失明）告知の重要性、医療からリハビリテーション（福祉）へのよりスムーズな流れの必要性が強調された。もちろん、この福祉展だけが契機になったわけではないが、大きなきっかけの一つとはなった。その後、社団法人日本眼科医会でも眼科医向けに「視覚障害者のためにーリハビリテーションマニュアルー」（社団法人日本眼科医会、1989）という約20ページの小冊子を発行し、視覚障害リハビリテーションについての理解の普及に努めている。

ところで、医療関係者に視覚障害リハビリテーションに対する理解を深める

* しばたひろかず 日本ライトハウス養成部 〒538 大阪市鶴見区今津中2-4-37
電話 06-961-5521 FAX 06-961-6288

ため、社団法人日本眼科医会・社会福祉法人日本ライトハウス主催、社団法人大阪府眼科医会后援による「医療関係者視覚障害リハビリテーション研修会」が平成2年度より年1回、開催されている。

1. 研修会要項（第6回・平成7年度のもの）

- 1) 目的：医師・看護婦・視能訓練士等医療関係者に対し、視覚障害リハビリテーションの基礎的知識について、実技（アイマスクによる体験）、及び講義を通して解説することを目的とする。
- 2) 主催：社団法人日本眼科医会、社会福祉法人日本ライトハウス（視覚障害リハビリテーションセンター）
- 3) 後援：社団法人大阪府眼科医会
- 4) 期間：平成7年7月4日（火）～6日（木）
- 5) 会場：日本ライトハウス視覚障害リハビリテーションセンター
- 6) 参加定員：10名
- 7) 内容（日程）：
 - 7月4日（火）
 - 9:30～9:45 入講式・ガイダンス
 - 10:00～11:45 講義＝視覚障害リハビリテーション
 - 13:00～14:00 講義＝手引きによる歩行
 - 14:15～16:45 実技＝手引きによる歩行
 - 7月5日（水）
 - 9:15～10:15 見学＝日本ライトハウス館内案内、VTR（盲導犬）
 - 10:30～11:45 講義＝医療と視覚障害リハビリテーション
 - 13:00～14:00 講義＝屋内歩行（ファミリアリゼーションを含む）
 - 14:15～16:45 実技＝屋内歩行と手引きによる歩行（復習）
 - 7月6日（木）
 - 9:15～10:30 講義＝弱視レンズ
 - 10:45～11:30 講義＝糖尿病等による視覚障害者のリハビリテーション

11：30～12：30 実技＝日常生活動作

13：30～15：00 ディスカッションとまとめ、及び修了式

2. 修了者

研修会の案内は大阪府下の眼科を併設している総合病院、約100ヶ所と滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山の主な医療機関に送付しているが、毎回参加希望は定員を上回り、医療機関のニーズの高さがうかがわれる。また、参加者の本研修会へのとりくみも非常に熱心である。

表1は第1～5回の医療機関別修了者数であるが、医療機関総数は24機関、修了者は、大阪医科大学附属病院、関西医科大学附属病院の6名を筆頭に総数51名である。

表1 医療機関別修了者数（第1～5回）

医療機関名	修了者数	医療機関名	修了者数
関西電力病院 (大阪)	1	医真会八尾病院 (八尾)	1
国立大阪病院 (大阪)	3	星ヶ丘厚生年金病院 (枚方)	2
大阪市立十三市民病院 (大阪)	1	近畿大学医学部附属病院 (大阪狭山)	2
大阪赤十字病院 (大阪)	3	大阪第二警察病院 (茨木)	1
多根記念眼科病院 (大阪)	1	市立泉佐野病院 (泉佐野)	1
大阪市立総合医療センター (大阪)	1	府立母子保健総合医療センター (和泉)	1
大阪市大医学部附属病院 (大阪)	1	神戸大学医学部附属病院 (神戸)	1
大阪医科大学附属病院 (高槻)	6	三菱神戸病院 (神戸)	2
関西医科大学附属病院 (守口)	6	兵庫医科大学病院 (西宮)	5
済生会吹田病院 (吹田)	4	西宮市立中央病院 (西宮)	1
大阪大学医学部附属病院 (吹田)	3	京都大学医学部附属病院 (京都)	1
河内総合病院 (東大阪)	1	天理よろず相談所病院 (奈良)	2
医療機関総数 24		修了者総数 51	

おわりに

本研修会は、定期的(年1回)に開催しているが、各種のアクセスにより、医療機関と視覚障害リハビリテーション機関の連携をさらに深め、リハビリテーションへの円滑な移行がなされるよう双方が務めなければならないであろう。

引用・参考文献

- 新井 宏 1988 病院訪問による視覚障害リハビリテーションの試み. 視覚障害研究, 27, 36-47.
- 市川宏他 1990 特集: 視覚障害リハビリテーションの現況と将来. あたらしい眼科, 7, 1099-1140.
- 岡山ミサ子他 1989 視覚障害者への看護-援助システムと自己管理の指導- 特集: 透析実施のための看護技術. 臨床透析, 5, 693-699.
- 小村妙子 1991 北海道における視覚障害リハビリテーションに関する眼科医の意識-アンケート調査から-. 視覚障害研究, 34, 65-75.
- 芝田裕一 1989 医療機関におけるリハビリテーションと歩行訓練. 歩行訓練研究, 4, 20-25.
- 芝田裕一 1992 医療関係者視覚障害リハ研修会について. 第1回視覚障害リハビリテーション研究発表大会論文集, 72-75.
- 芝田裕一編著 1994 視覚障害者の社会適応訓練第2版. 日本ライトハウス.
- 社団法人日本眼科医会 1989 視覚障害者のために-リハビリテーションマニュアル-. (日本の眼科60:10号附録)
- 塚本尚 1989 医療機関における視覚障害リハビリテーションの諸問題. 歩行訓練研究, 4, 11-14.
- 日比野清 1989 失明告知とカウンセリング. 歩行訓練研究, 4, 3-10.
- 星 充・日比野清 1986 網膜症進行例の社会復帰. 特集: 糖尿病の合併症-眼の障害- プラクティス, 3, 434-437.
- 盲人福祉展実行委員会 1987 '86盲人福祉展報告書. 社会福祉法人日本ライトハウス.